

かんしょの生産拡大に取り組む経営体の育成

県西農林事務所経営・普及部門

筑西地域で生産拡大を推進するかんしょ栽培においては、前作が果樹や野菜で圃場が肥沃な場合、つるぼけ（過繁茂）が問題になることがあります。また、儲かるかんしょ経営の実現のためには、省力技術を導入した生産性の向上が求められています。これらの課題に取り組んだ結果、生産者数及び栽培面積は、前年に比べて大幅に増加し、また地域をリードする大規模経営も実現しつつあります。

栽培改善による肥沃圃場対策

肥沃圃場でのかんしょ栽培において、無肥料での連作や緑肥の活用、ウイルスフリー苗の利用などを組み合わせた実証試験を行いました。

その結果、単収は年々増加傾向となり、緑肥をすき込んだ圃場の単収は2.2t/10a、無肥料での連作と緑肥持ち出し、ウイルスフリー苗を組み合わせた圃場の単収は2.5t/10a以上となり、肥沃圃場での目標収量2t/10aを達成しました。



緑肥の活用や、ウイルスフリー苗の利用により収量品質は向上しました。



写真1 肥沃圃場における多収技術



収穫時には生分解性マルチの崩壊は進み（左）、つる刈り作業で概ね粉碎されました（右）。



圃場の形状や傾斜によらず、ドローンによる連続作業が可能であることを実証しました（左）。

写真2 生分解性マルチやドローン防除の導入

省力技術の導入による生産性向上

生分解性マルチの単価はポリマルチより高額ですが、ポリマルチの処分に要する労賃や廃棄費用が不要となるため、費用の総額はほぼ同等となりました。また、収量も慣行マルチと同等で、収穫後のマルチ片飛散の問題もありませんでした。

ドローンによるナカジロシタバ防除の作業能率は2～3分/10aで、慣行の動噴防除より極めて省力で防除効果も遜色ないことを確認しました。

新規生産者の確保と面積拡大

各種事業の活用や関係機関との連携による新規生産者の推進と併せて、個別巡回や診断指導による既存生産者の規模拡大を支援しました。

その結果、生産者数は前年度の14名から21名に、面積は約10haから16haにそれぞれ増加しました。これらの生産者のなかには、付加価値向上のための加工部門も設立した5ha規模の大規模経営も現れ、かんしょを導入した儲かる農業経営が実現しつつあります。



写真3 生産拡大推進のためのセミナー